



World Winter Cities Association for Mayors

2012年4月発行

市長会広報誌

世界冬の都市

〈世界冬の都市市長会事務局〉

〒060-8611 札幌市中央区北1条西2丁目
札幌市総務局国際部内
TEL011-211-2032 FAX011-218-5168
e-mail: wwcam@city.sapporo.jp
URL: http://www.city.sapporo.jp/somu/
kokusai/wwcam/

第15回世界冬の都市市長会議実施報告 ～モンゴルの首都ウランバートルで開催～

世界冬の都市市長会は、2012年1月13日から15日までの間、第15回世界冬の都市市長会議をモンゴルの首都ウランバートル市で開催いたしました。メインテーマ「冬の都市におけるエネルギー供給と熱の効率的な利用」のもと7か国13都市の市長や代表者が参加し、3つのセッション（①熱エネルギーの効率的な利用、②電力の効率的な利用、③冬の都市における大気汚染と対策）において、熱い議論を交わしました。

ウランバートル宣言と決議を採択

市長会議の締めくくりとして全体会議が開催され、ウランバートル市及び事務局から提案されたウランバートル宣言及び決議が満場一致で採択され、ウランバートル宣言には、同市市長及び札幌市長（世界冬の都市市長会会長）の署名が行われました。

ウランバートル宣言では「この会議で得たエネルギーと熱の効率的な利用をさらに探求するとともに、市民一人一人が省エネルギーの重要性を認識するよう、積極的に啓発する責務を有する」ことをうたい、決議において、各会員都市が可能な範囲で数値目標を設定し、次回市長会議で報告することとしました。また、2016年に開催予定の第17回世界冬の都市市長会議の開催都市が札幌に決まりました。

会議参加都市（7か国13都市）

国名	都市名
中国	長春市、ハルビン市、ジャムス市、チチハル市、瀋陽市
エストニア	マールドゥ市、ヴィームシ市
日本	札幌市
モンゴル	ウランバートル市
韓国	華川郡、太白市
ロシア	ウラン・ウデ市
アメリカ	アンカレッジ市



ようこそ、ウランバートルへ！

ウランバートル宣言

今、世界各地において、様々な異常気象や自然災害が多発し、多くの尊い人命が失われ、財産を失い、過酷な環境での生活を強いられている。しかし、我々は、この災害による被害を最小限に抑え、より安心・安全な社会を築き上げなければならない。この原動力となるのは、助け合う心、そして、困難に立ち向かう努力と知恵である。

困難な時の温かな支援は、真の友情と平和を育む。我々会員都市は、お互いの友情と様々な分野における可能な限りの協力をここに再確認する。

そして、現在の異常気象の一因である温室効果ガスの排出抑制に努めることが重要である。そのためには、限られた資源を有効に活用しなければならない。我々は、この会議で得たエネルギーと熱の効率的な利用をさらに探求するとともに、市民一人一人が省エネルギーの重要性を認識するよう、積極的に啓発する責務を有する。

我々は、エネルギー消費量の削減及び環境への負荷の少ない都市活動の実現が、冬の都市に住む者にとって重要な課題であることを再認識し、各都市がこの問題に対し最大限の努力で取り組んでいくことを、世界冬の都市市長会としてここに宣言する。



会議参加者による記念撮影



市長会議の様子



ウランバートル宣言を披露するムンフバヤルウランバートル市長と上田札幌市長

市長会議

はじめに、「冬の都市におけるエネルギー供給と熱の効率的な利用」をテーマにウランバートル市ゼネラルマネージャーのバット氏からの基調講演が行われ、ウランバートルの熱供給源としてセントラルヒーティングを増やしているが、現在、ウランバートルの熱供給源の6割が石炭であり、ゲル地区の住民を住宅に移し、さらに石炭の使用を削減していく必要があることなどの報告がありました。



A セッション ～ 熱エネルギーの効率的な利用 ～

ウランバートル市からは気候と地形の問題もあり大気汚染が深刻であること、今後、太陽光などの再生可能エネルギーを活用していきたいとの報告がありました。

華川郡からは、地域のエネルギー源として水力、風力、太陽光、地熱などがあるが、特に森林資源（木質ペレット）の活用を図っているとの報告のほか、家庭でのエネルギー消費原因を調査したうえで、市民に公共の交通手段や自転車の利用を呼びかけたり、7つの節電方法を提案し、個人でできるエコの取組を推奨している事例が紹介されました。

C セッション ～ 冬の都市における大気汚染と対策 ～

ウランバートル市からは、大気管理局の設置、電気バスの導入、再生可能エネルギーへの転換、熱電併給プラントの建設、ゲルに暮らす住民を対象としたアパート購入における低利子ローンの提供などを通して、大気汚染の6割削減を目指す旨の報告がありました。

マールドゥ市からはオイルシェールの燃焼により発生する灰や二酸化硫黄がエストニアの大気汚染の原因になっていること、マールドゥでも主要産業である鉱物の精製所や化学工場により、歴史的に土壌、大気、水質汚染が見られることについて説明があり、現在、大気汚染のモニタリングを実施し、環境保全に努めている旨の報告がありました。

瀋陽市からは、産業の発展と冬期の石炭使用により大気汚染が著しかったが、経済と環境が共存する都市を目指して、汚染物質を大量に排出する工場の閉鎖、モニタリングの強化、環境保護法の制定などを行った結果大気汚染の大幅な改善が見られたこと、現在でも（特に冬期は）大気汚染は切迫した問題であり、取組を続けているとの報告がありました。

また、チチハル市からは、石炭の拡散燃焼を監視するモニタリングステーションの設置、エネルギーの再利用による熱供給、産業汚染のモニタリング、バイクの排ガス規制などにより大気の状態に一定の改善はみられるが、引き続き対策を強化していく旨の報告がありました。

B セッション ～ 電力の効率的な利用 ～

はじめにウランバートル市より、冬の厳しい寒さにより冬期の電力消費量が増えることから、大気汚染の悪化が著しいゲル地区に電気暖房を普及させて汚染の緩和を図るには、メンテナンスの問題のほか、現在の5～8倍に電力供給量を増やす必要があるとの報告がありました。

札幌市からは、太陽光発電やLED街路灯の積極的な導入の報告のほか、木質バイオマスの活用やコージェネレーションシステム、雪冷熱の活用による熱の効率的な利用について報告がありました。



記者会見の様子



ウランバートル市のプレゼン

小委員会

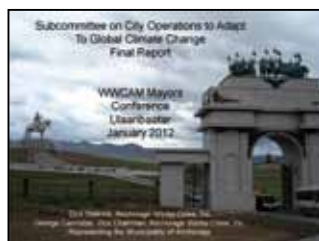
「自治体の諸活動における環境保全活動調査小委員会」最終報告

アンカレッジ市

2008年のヌーク市長会議でアンカレッジ市により設立された自治体の諸活動における環境保全活動調査小委員会の最終報告が行われました。最終報告では、アンカレッジのエネルギー保全、エネルギー効率、電力の有効利用に重点を置いた報告がなされました。エネルギーの効率的な利用は都市がその持続可能性を高め、気候変動に備えるために取りうる最も重要なステップです。例えば、アンカレッジの主要電力事業会社2社は、既存の発電所に比べて燃料効率が25%向上することが見込まれる新規共同発電所事業にあわせて約3億7000万ドルを投資しています。また、この2社は2012年中に供給開始を予定しているアンカレッジ初の風力発電所にも投資しています。この電力事業会社はエネルギー効率と保全を重視しており、一般市民への啓蒙プログラムにより、同

社の電力供給会員の84%が「不要な電気を消す」、「より効率の高い電球を使う」、「電気機器の使用を控える」、「家の断熱性能を高める」という省エネ行動を取るようになっていきます。

また、アンカレッジのLED照明事業は目覚ましい効果を上げています。第一段階として、住宅地の街路灯と低速集光灯（コレクターライト）の入れ替いを95%完了しました。従来の高圧ナトリウム灯との比較における実際の省エネ効果は素晴らしく、59%の削減となっています。資本回収期間も短くなり、ドライバーや歩行者からも高い評価を得ています。



これらの取組から得られた大きな成果の一つは、過去10年間におけるアラスカ州の都市部住民世帯で使用された電力の平均キロワット時の大幅な節減です。これは大きな達成であり、消費者にとっては節約となり、温室効果ガスは削減され、エネルギー資源の保全が向上しました。

最後に同小委員会の活動から得られた結論は次のとおりです。

- 気候変動は世界冬の都市市長会会員都市にとって共通の大きな関心事である。
- 各都市は気候変動という課題に対し、方法は異なるがそれぞれが優れた戦略により対処している。
- 都市部への人口流入が都市にさらなる負荷を与えている。
- 我々の見解ではあるが、都市は持続可能な発展に絶好のチャンスを生むことができる。
- 最も重要ことは、都市間で今後も教訓を共有し、共に取り組んでいくことである。



小委員会の最終報告を行うアンカレッジ市のディック・スタローン氏

「環境保全小委員会」中間報告

長春市

長春市が事務局を務める環境保全小委員会が開催され、長春市環境保護局の閻文局長から、「冬期の大気中の微粒子物質の原因に関する調査」と「融雪剤が環境に与える影響」という2つのテーマについて、進捗状況の中間報告がありました。

長春市のワーキングチームは2014年1月までに関連調査を完了する予定で、調査結果は冬の都市の問題解決に大きく寄与できるものと期待しています。大気汚染と降雪に対する対策は、世界中の冬の都市が抱える重要な環境問題です。長春市は経験と調査のノウハウの全てを世界冬の都市市長会の会員都市と共有していきます。閻文局長は、世界冬の都市市長会における国際的な協力が、冬の都市が冬期に直面する課題に対処する上で非常に重要であるとしています。



小委員会でプレゼンを行う長春市環境保護局の閻文局長

冬の見本市

1月14日及び15日の2日間、ビジネス・ディベロップメント・センターにおいて冬の見本市が開催されました。会場には大勢のモンゴルの方々が訪れ、冬に関連した製品や技術を紹介するブースを熱心に見ていました。



冬の見本市出展ブース



冬の見本市開会式

出展都市名	出展数	出展内容
ウランバートル	23 ブース	エネルギー、住宅、暖房、衣料、食品関連
ハルビン	3 ブース	鉛筆、木材、貿易
札幌	7 ブース	住宅、土木、造園、防災、企業紹介、札幌 PR

コラム ようこそ札幌へ！

- ☆ 2011年12月、瀋陽市の環境保護局副局長ら5名が札幌を訪れ、モエレ沼公園を視察しました。
- ☆ 2012年2月、ウランバートル市からムンフバイル市長ら9名の訪問団が札幌を訪れ、熱供給施設や地下鉄などを視察しました。
- ☆ 2012年3月、ウランバートル市投資局長ら3名が札幌を訪れ、モンゴルの経済事情、社会基盤整備状況などを札幌・北海道の企業に紹介しました。
- ☆ 2012年3月、ジャムス市から孫市長ら53名の訪問団が札幌を訪れ、投資説明会を開催しました。



韓国の華川郡が2014年市長会議を開催

華川は首都ソウルから2時間、韓国の最北端に位置し、人口約2万5千人、総面積約909km²の小規模ではありますが、活気のある街です。

湖、山、渓谷に囲まれた華川には4つの特徴があります。

一つ目は、民族性やイデオロギーを超え、世界の平和と安定に向けて行動する平和都市であることです。平和の鐘や平和アートパークの設置を通じ、華川は戦争や紛争がもたらした傷を乗り越え、平和と共存への道を目指します。

二つ目は、華川の素晴らしい自然環境を将来の重要な資源として守っていくことを認識し、環境保全と自然環境の利用の在り方についての取組を行っていることです。特に、「世界河川文化都市フォーラム（World River Culture Cities Forum）」の事務局として、河川の水質汚染や環境悪化、環境保全への対策を提案し、同フォーラムの世界各国からの会員都市と実行可能な解決策を共有しています。



豊かな自然に囲まれている華川の景色

三つ目は、華川は広大な川でウォータースポーツを楽しむメッカであるだけでなく、さまざまなスポーツチームのシーズン前トレーニングのキャンプ地としても定評があります。毎年、ボートとカヌーの全国大会が華川湖で開催されており、また、小学生の全国スケート競技会や韓国女子サッカーリーグなどの全国大会の会場にもなっています。スポーツが市民の生活の一部として親しまれるよう、スポーツ振興にも力を入れています。

四つ目は、四季を通じた祭りのまちであることです。夏休み時期（7月～8月）には、「いかだ祭り」や「トマト祭り」が開催され、参加者は夏の暑さを忘れて大いに楽しめます。また、1月にはCNNの冬の七不思議に選ばれた「ヤマメ祭り」が開催され、毎年100万人を超える来場者がさまざまなイベントを楽しみます。多くの住民が祭りの主体として観光客をもてなし、また、この祭りは華川の地域経済を支える一助となっています。



活気にあふれるヤマメ祭り